胃がんリスク検診（30歳以上）
（ABC検診）

「ピロリ菌」感染の有無と、胃粘膜の老化（萎縮）を表す「ペプシノゲン」を測定します。
胃の健康度（胃がん危険度）を評価する検査です。

＜採取方法＞

- 専用の器具で指先から血液を採取します。

※特定の疾患の治療中で、薬剤（ヘパリン・ワーファリン・ウロキナーゼ等）を服用し、止血機能が低下している方は、検査の申込みができません。

※食道・胃・十二指腸疾患で治療中の方、プロトンポンプインヒビター（PPI-潰瘍治療薬）を使用中の方、 腎不全や腎機能の治療中の方、胃の切除を行った方は正確な検査結果が出ないことがあります。

胃がん　「ピロリ菌」感染が胃がんを引き起こします

測定したピロリ菌とペプシノゲンの値から胃の健康度をA･B･Cで評価します。

		ヘリコバクター･ピロリ抗体検査	
		陰性	陽性
ペプシノゲン検査	陰性	A タイプ	B タイプ
	陽性	C タイプ	

胃がん予防としてのピロリ菌治療！

胃がん予防としてのピロリ菌除菌治療が胃･十二指腸潰瘍などに加え、「胃炎」にも保険適用されます。（ただし、保険適用のためは内視鏡による確認が必須です。）

A タイプ

健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。

B タイプ

胃かいよう・十二指腸かいようなどに注意しましょう。
胃がんのリスクもあります。
内視鏡検査を受けましょう。

C タイプ

胃がんなどの病気になりやすいタイプ。内視鏡による定期的な検査を受け、胃の病気の早期発見･早期治療に努めましょう。